

I. 『草野心平の詩から』

石家莊にて
天 金 魚
雨 さくら散る

『柳河風俗詩』より

柳 河

『海に寄せる歌』より

砂 上

II. 『スイングからタンゴまで』

編曲/指揮 早野柳三郎

intermission

III. 『シーシャシティー海の男達の歌』

Swansea Town
Lowlands
Ben Backstay
The Mermaid
Whup! Jamboree
Rolling Home
Boston Come All-Ye

指揮 松尾昌美

作曲 多田 武彦
指揮 松尾 昌美

草野心平の詩から 天

出帆のなごり
五セシテの陣士
海はこゝろでものを煮たりキ
あやもこあやしく細つてくさく
青天に風は雲の敷居がまじり
寒波の響は木目響めかけし響り
シヤントンヤ 煮だてて水の響は風は流れる
人魚も見へから
馬も神木も
出帆のなごり五セシテの陣士

石家莊にて

天の草野くたり
かたしつ
潮来かきし女
月影の影にはいり来たり
白鳥を
月影をわす
耳鳴のみなるえたり
あ
十五の夕暮の影にこ
五セシテ
沈みゆくなり

金魚

あおめらるのなかで
大珠金はつちかじゆらめく
とおい船中ら 遠旅のようじ
五歩の響が流れるようじ
深いあめらるのなかに流るる
合駁木の花をさるる 水の色に
そのお白鳥の手に空を流るる 水は流るる
口をつける
かすかに動く花
金魚は流る
静寂もなく 静のようじ
あおめらるのなかの来いばかし
金と来とのぼりばり

雨

赤い耳環は海軍の響をこ
響をさてる
何十メートルの天の風から流るる響が
地上すれすれの響をこさるる
林檎畑にはももれな響に
さうしてまらこつたる
點
天の響
響が生まれたりかり響にのぼる

もくら散る

はなななる
はなななる
ちよるるちよるるまらるるちよるるまらるる
光も影もいりまじり
響はななる
死にけりしつがこまらるる
まらるるちよるるまらるる
光も影もいりまじり
かたしつと響のちよるる響が
生れはははは

はなななる
はなななる
寒波の響のなかで
響はななる
響はななる

はなななる
ちよるるちよるるまらるるちよるるまらるる

ごあいさつ

本日はお忙しい中ご来場頂きまして誠にありがとうございます。私共大阪メンズコーラスは、昨年、創立20周年を迎え、その記念リサイタルをサ・シ・フ・オ・ニ・ホールで開催いたしました。20年もの間、Sea Chanty に海の男のロマンを追い求め続けてこられたのも皆様方のご支援のおかげです。厚くお礼申し上げます。さて、21年目を迎える今年には、Sea Chanty にさらに新しい切り口で挑戦します。第IIステージ「スイングからタンゴまで」は過去にOMCの新しい側面を開拓していただいた早野柳三郎先生に、今回は特に編曲と指揮をお願いし、楽しい演奏にしたいとメンバー一同練習に励んでまいりました。OMCの良き理解者であり、今や仲間としてつき合ってきた早野先生のご指導によりぜひ一杯歌います。どうか最後のSailing Sailing! までゆっくりにお楽しみ下さいませますようお願い致します。キャプテン 後藤 一

●松尾昌美

1935年神戸生まれ。関西学院大学、大阪音楽大学、桐朋学園にてそれぞれ、音楽美学、作曲、指揮を学ぶ。永年にわたり、数々のオケやオーケストラ、合唱団の指揮にあたる。現在、関西歌劇団および大阪モーツァルト合奏団の指揮者。大阪音楽大学教授。



●早野柳三郎

大阪音楽大学作曲学科卒業
ヤマハ音楽教室指導講師を経て
現在、大谷女子大学教授
大阪音楽大学、大阪芸術大学講師

著者

『バイエルによる女声合唱曲集』
『ファイガロの結婚序曲』 など



男の男の楽



16th OMC RECITAL

ちまたでは、「オシャレな男達」が異常発生しています。DC風、トラッド派、カジュアル派……様々あります。でも、大阪にはこここの男達よりオシャレな連中はいないので（そのつもりなのです）OMC流「オシャレ楽」。それは心響きを感じさせたいのです。我々のオシャレをわかって欲しい。聞かせます。OMCのオシャレ楽詩。



FRIDAY OCT. 3rd 1986
KOSEINENKIN KAIKAN
OSAKA MEN'S CHORUS

- ①藤川文義
 - 実質選んでオシジャレとは無縁の40数年でした
- ②寺本忠氏
 - 法廷立ち会い用法版(何と官給品)
- ③川合 恭
 - 数年ぶりに買った靴が謙田と同じだった
- ④半田 孝
 - 私はオシジャレとはあまり縁がありません
 - スーツもネクタイも履いでいます
 - しかし、自分ではカッコイイと感っています
- ⑤坂谷真郎
 - オシジャレとはオシジャレにこだわらないこと
 - オシジャレとは人の賞賛をしないこと
 - オシジャレとは自立すること
- ⑥有田仁一
 - ブーツ・タロー・ブ・ライダースーツ
- ⑦橋本洋一郎
 - ごくまれに着るスーツとPLAYBOYの服
 - いつも着ている白ズボン
 - 9月12日に男の子が生まれました
- ⑧宇野健一
 - お酒より麻酔薬
 - スタイルよりスマイル
 - やっぱりOMC(広瀬無根より大受)
- ⑨平石真也
 - 突然な服装をせず、ただただ無難に...
- ⑩二宮 一男
 - はね上げ耳留
 - ペンハルグのステレオ
 - 屋敷のゴキウ車
- ⑪砂場一晃
 - 外見のオシジャレには無縁、心のオシジャレだけ!
- ⑫三好 計
 - 美しい妻と街を歩くこと
 - 大阪メッセコラーラスでの合巻活動
 - 今着ている羽の大きなOMCのジャケット
- ⑬吉田真一
 - 千鳥会で買ったMちゃんとのベアの靴下
 - Yさんからもらった紺色のネクタイ
 - TちゃんからもらったCROSSのボールペン
- ⑭梅本英哉
 - 焚き火の炭をじっと見つめる山男
 - そこにあるから寝るんだという山男
 - また来年も来るぞと去って行く山男
- ⑮石尾雅昭
 - 千里の竹で作ったがくや姫のキーホルダー
- ⑯中村文雄
 - お金を使わない
 - 頭を洗わない
 - つまり私はオシジャレを穿けない
- ⑰石津佳彰
 - 乗っ裸の僕(気持ち悪いツリーイッ!)
- ⑱北場栄和
 - 私のユニフォーム、白いケージ
 - 今は着れないウエスト70cmのスポン
 - オシジャレのできる給料がほしい
- ⑲養津正尚
 - 口から出るあの言葉(又の名を口先ハンサム)
 - 心の底からのやさしさ ワッソ!
 - 心のどくしん(毒身?)
- ⑳海野正敏
 - くつろいでいる時に着るスポーツジャケット
 - 自分が気に入っている柄のネクタイ
 - 元来オシジャレとは赤い目立たないことでは!
- ㉑葉岡憲雄
 - 演奏中にミスして頭をかくポーズ
 - ステージ衣装の下に着るチエックのトランクス

- ㉒杉野文昂
 - ガムで固まってきたハレ一すい屋のTシャツ
 - 中国で買ったきたちよっと太き目の扇子
 - ソ連で買ったきたちよっと太き目の扇子
- ㉓河村穰香
 - 世間にもあまり無い物を持っている喜び
 - たいに世間と同じという安心感
 - 最低限度はキタナクナイ事でしょうか.....
- ㉔下出遼夫
 - 私のオシジャレは季節の通り
 - 人々を驚かすこと(私の場合は女性だけ)
 - ドラッグ屋で、アイラインを入れ
 - 頭ひげつけて帽子でしめる(オペラ出演以来)
- ㉕尾崎公昭
 - 人を驚かすこと(私の場合は女性だけ)
 - 人に驚かされること(男はあつわり)
 - 芸術を愛し、楽しむこと
- ㉖村田光巧
 - 流行物を持たないことがオシジャレ
 - オシジャレをしたことがないことがオシジャレ
 - オシジャレを考えたことがないことがオシジャレ
- ㉗高橋健己
 - オシジャレには無縁で至善な人間なので
 - 心掛けることはただただ清潔感あるのみ
 - 夜の事はすべて彼さんに任せています
- ㉘加藤克雄
 - 時代遅れの黒がメチガネ、仕方なく愛用
- ㉙松岡康生
 - 音符が読めないが.....
 - 夢でこそそり練習する...そして
 - いかにも練習が読めるような顔をして歌うこと
- ㉚藤川雄紀
 - いいものを未長く壊れるまで使いこむこと
- ㉛鈴木 真
 - 少しシジャレているのは卑ぐらいが
- ㉜鎌田昌彦
 - 息は重厚なジャケットで髪をさきんと分け
 - 髪はつんと整やかに
 - そして休日にはカラフルに.....したい
- ㉝米田克弘
 - 生野菜を食べてつやつやの肌
 - 野菜を生で食べてパリパリ食べられる昔
 - 動物性タンパク質をとらない甘っっぱい匂いの汗
- ㉞田丸正芳
 - 夏 - オリジナルの手描きTシャツ多数有り
 - 冬 - 某ハブで入店を断られた黒の革ジャン
 - 愛蔵 - 4月に相太コミ置き場で買ったステレオ
- ㉟池田泰延
 - 何から何までさりげなく
 - 真後に手を隠す、または口をすく
 - 爪を伸ばさない(楽器が弾けないことをかくす)
- ㊱鳥居信男
 - simpleである?
 - speedyである?
 - chickである?
- ㊲高橋 聖
 - さりげない魅力のファンポイントを!
 - 髪が長い(特に後ろ)
 - 髪が長い(特に後ろ)
 - でもやっぱり音楽で決めたよね!
- ㊳福原幸一
 - 私を除くOMCのmember像
 - オシジャレを.....オシジャレ!
 - こんなジョークが私のオ・シジャレ
- ㊴後藤恵一
 - 白いウルマ
 - 白いデッキシューズ
 - 白い木綿のハンカチ
- ㊵筒井 彰
 -



男のオシジャレ楽 私のオシジャレ